
重たい体

幸咲満

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
重たい体

【Nコード】
N5117M

【作者名】
幸咲満

【あらすじ】
人形のメイには感情が芽生えていた。
それはいつの間にか生まれていて、さらには、人の話す言葉や、温度や湿度、人間が一般的に感じる感覚もメイは感じるようになっていた。

そんなメイが慕っている人間は彼女を造ったスミであった。

ブローグ

いつも息を感じるぐらいそばにいたから私はわかっていた。

彼が好きなもの。

彼が嫌いなもの。

彼の嗜好は一通り知っていたつもりだし、それだけでなく今日の気分なんて手に取るようにわかった。

そして私は何よりも彼と過ごす時間が大好きだった。

ああ、今日はお客さん来ないなという独り言が彼の口からこぼれた日は、不謹慎だけれど私の心の中では小さな喜びの光がともされる私に心があるなんて、誰もが眉を寄せて冗談だろと言うかもしれないし、もしくは面白いジョークだねと小馬鹿にしたように笑いながら言うかもしれないが、これは本当のことだし、こうなったことも彼の愛情だと私は誇りに思っていた。

だいたい私が存在する枠では、私のように心を持った者は勘違いをしている傾向にある。それは心のある自分が特別でなく、ごく当たり前の存在だと勘違いしているところである。けれど私はそんな箱入り娘のような世間知らずな勘違いをしなかった。それは私の周りに陳列する冷えた私の同族を見て明らかだったから。

私のように感情をもつものは、この部屋を半分埋め尽くすほどいる同族のなかで私以外に見当たらないからだ。

いたとしたら今日の服可愛いねとか、今日の部屋の湿度は最悪だねとか、今日もスミは優しいよねとか話していたと思う。まあ私が言葉を発することができるかどうかは怪しいところだが。

スミとの生活を意識するようになってから2度目の冬を迎えた。きっと私が経験したであろう冬は何回も訪れていたけれど、その時の記憶はない。からつとした空気とウィンドウから見える寒々とした

街の光景がどうやら冬という季節に当たるということを、私は感情が芽生えてからの１年目の冬に知った。冬が来たことは、外の楓の木が葉を落として寒そうに身を固くしている様子が見えたとき、そして、この店に来るお客さんが最近一段と冷えてきたねとスミに話しかけたとき、それから、朝、スミが寒いと言いながら私を抱き寄せたときに気付く。

そして私はこの季節が一年の中で一番好きだった。

スミが寒いと言って布団の中にいる時間が長くなり、それから布団の中で私を抱きしめてくれる時間が長くなるから。

私が温度も感じるようになったのは初めての冬を迎えた時だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5117m/>

重たい体

2010年10月11日13時18分発行